

一般質問発言通告書

発言順位

15番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 6年 6月 11日

三島市議会議長 堀江 和雄 様

三島市議会議員 11番 古長谷 稔

質問事項1	新庁舎の整備地選定について
具体的内容	新庁舎の整備地選定に向けた市民アンケート調査が、6月5日に締め切られた。この結果も参考にしながら、本年8月を目処に市として整備地の方針を決定し、公表する予定とされている。整備地の方針決定前に、整理すべき項目について、以下、当局の考え方を伺う。
	1 市民アンケートの結果の公表について
	2 工事に伴い市民に影響を及ぼす期間、発掘調査対応について
	3 整備地選定後のまちづくりビジョン構築に向けた進め方について
	4 まちのにぎわいを創出し、回遊性を高めるための跡地利活用に対する計画策定等について
質問事項2	災害時要支援者の個別支援計画について
具体的内容	個別支援計画を既に作成済みの自治会・町内会と、いまだ作成できていない自治会・町内会とがある。能登半島地震の発生を踏まえ、市民の防災意識が高まる中、防災をきっかけに人と人とのつながりを取り戻すチャンスと考える。個別支援計画を作成できていない理由は多々あろうが、民生委員の皆様を通じての福祉的なアプローチのみでは限界があるのではないかと。令和4年6月一般質問で取り上げてから2年が経過した。三島市避難行動要支援者計画の策定から、まもなく10年を迎える中で、個別支援計画の策定率向上に向けた構造的改革が必要な時期。「わたしの避難計画」の策定を、重点的な取り組み課題と位置付ける年度だからこそ、防災と福祉とを両輪で進める方針を持つべきではないかと。以下、当局の見解を伺う。
	1 個別支援計画の策定に関するこれまでの成果と今後の数値目標設定について
	2 この間の自主防災組織事務説明会や出前講座等での啓発推進状況について
	3 個別支援計画策定率向上に向けた、三島市避難行動要支援者計画の見直しについて
	4 実際に支援者と要支援者とをつなぐ具体的方法について
	(1) 組単位の会合の後の時間等を使って、年に一度でも顔合わせの機会を創ることを推奨
	(2) 要支援者が支援者の誰かに助けを求められるよう、お互いの電話やLine登録等を推奨
	(3) 一緒に「わたしの避難計画」を策定するなど、危機管理課の取り組みとの連携
質問事項3	大場川堤体内の鉄塔の影響による洪水リスクと対応策について
具体的内容	平成24年3月に三島市が作成した水害ハザードマップでは、大場川中上流の浸水想定区域図として、大場川堤体内に鉄塔が立つ中島の地点での洪水想定が示されている。また、令和元年に、国の想定を元に作成された洪水ハザードマップ（想定最大規模）では、より深刻な被害想定が示された。近未来、もし大場川が破堤して洪水になるとしたら、この中島の地点が、最も心配である。個人的な独自調査によれば、現場は、約1割、河道断面の面積が小さくなっている。越流リスクを軽減すべく改善が必要と考えるが、以下三島市としての見解を伺う。
	1 河道断面形状と越流リスク、これに伴う洪水リスク、及びその際の被害想定について
	2 リスク軽減対応策の実現可能性について